

### 3 今年度の重点施策

## ～ 新しい時代を創造する「未来の守護者」たち ～

本校では、今年度より「**コミュニティー・スクール**」に指定されるとともに、「学年担任制」を導入します。これまでの「学級担任制」は学級経営を一人の教員が担うものですが、これからの「学年担任制」は一人の教員に固定せず、**学年教員全員で担当し、協働して学級経営**を担います。

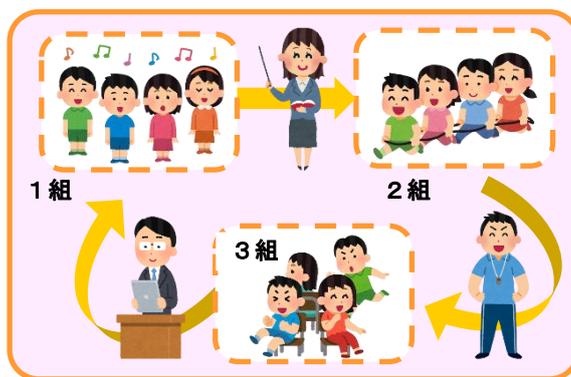
学年担任制は、これまで本校が貫いてきた「**垣根のない学校**」を、さらに一段高める根幹を形成するものです。学級の枠を外し、これまで以上に「**例外なく誰もが安心して過ごせる、一人一人にとって居心地の良い学校**」をめざします。

## 垣根のない学校 学年担任制

### 【垣根のない学校】



### 【学年担任制】



## 『学年担任制』効果への期待と不安

3月に保護者アンケートをお願いしました。その結果（[詳細はコチラ](#)）、あくまでも実施前のイメージではありますが、**9割の方が学年担任制の効果に期待**すると肯定的に受け止めていただいている一方、**5割の方が不安**な気持ちもあることが分かりました。「どうなるのかなあ」という不安を取り除き、円滑な移行を目指し、各学年の実態に応じた実効性のある方策・指導体制で、柔軟に運用して参ります。

#### 「子供への効果に期待」(約85%)

- 複数の担任が協働して学級経営を担う。
- 複眼的に一人一人の児童に対応する。
- 児童がどの教員にも相談しやすい。

#### 「教員への効果に期待」(約91%)

- 教員の強みを生かした授業や指導ができる。
- 教員が学び合い、人材育成に寄与できる。
- 学年で統一した指導ができる。

#### 「移行への不安がある」(約52%)

- 複数担任で報告・連絡・相談など大丈夫か。
- 情報共有や対応に齟齬が生じないか。
- それぞれの教員が無責任にならないか。

## 実効性のある方策・指導体制で、柔軟に運用

いずれにしても、社会の変化に伴い学校教育を取り巻く状況は一層複雑になっており、学校や家庭、子供たちの課題も多様化しています。「個別最適な学び」や「協働的な学び」に象徴されるように、新たな教育の実現も大きな課題です。学年担任制は、それらの課題を解決する一助になるのではないかと考えます。

### 〔運用方法例〕

- 学校経営方針に基づき、各学年の実態に応じた実効性のある方策・指導体制で、柔軟に運用する。
- 学年の学級数の全教員（従来の学級担任）で、一定期間ごとに、担当学級をローテーションする。
- 可能な限り専科教員等を加えることで、学年の学級数を上回る教員で、学年の指導体制を組む。
- 各学年の実態に応じた教科担任制を導入し、道徳と学級活動は、学年の全教員で担当する。
- 総合的な学習の時間は、学年全体でグループ編成し、さくら学級も個に応じて共同で学習する。
- 教科担任制や総合的な学習の時間の指導は、複数学年のまとまりで実施することも考えられる。
- その他、さくら学級との交流及び共同学習や、学年単位での活動を意図的に取り入れていく。

